

淀川水系流域委員会（地域委員会）

議事概要

1. 日 時：令和3年3月22日（月） 10:00～12:15
2. 会議方法：Web
3. 出席者：別紙 委員名簿より

4. 議事概要

1)

委員：流域治水について、水田やため池の活用などは農水省の管轄かもしれないが、市町村任せでなく、連携して積極的に援助すべき。

事務局：流域治水協議会の中で議論を進める。近畿農政局からも、水田やため池の活用の提案を頂いている。

委員：流域治水の取組を、教育にもリンクさせている事例があれば紹介頂きたい。

事務局：事例を収集し、紹介したい。

委員：河川整備計画の変更は、豪雨の発生やこれまでの事業進捗が背景にあると思うが、10年ごとなど定期的に変更するのか。

事務局：変更の頻度について決まりはなく、必要に応じて適宜変更する。

計画変更のほか、毎年の進捗点検や5年ごとの事業評価を実施している。

委員：流域治水について、以前は、河川管理者による対策と河川管理者以外による対策が同列に語られ、流域で実施した分、河川整備を減らすという意見もあったが、治水は河川管理者による対策が本丸だと思うので、「流域治水への転換」ではなく、「強力な推進」とすべき。

また、流域治水を推進するための法整備も検討すべき。

事務局：河川管理者による対策も河川管理者以外による対策も、いずれも流域治水の対象と考えているが、河川管理者による対策を一層進めるのに加え、あらゆる関係者による協力を求めている。

流域治水関連の法整備は、今後、国会でも議論されるものと理解している。

委員：流域治水について、河川整備計画の変更原案には、民間や事業者との関わりが書いていないので、書き込むべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：変更原案P.38の「日常からの人と川のつながり」の図で、住民からの意見が一方方向になっているが、双方向の連携が必要。

変更原案P.39の「河川レンジャーの充実」に「将来的には、・・・」との記載があるが、既に住民と河川管理者との橋渡しとなっているので、書きぶりを修正すべき。

変更原案の全体を通じて、「参加」「連携」「協働」などの用語の使い分けを明確にすべき。

変更原案P.44の「上下流の連携の構築」において、「上流」の定義があいまい

であり、琵琶湖が含まれるのか否か不明確であるため、明確にすべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：危機管理体制の構築に、流域治水の施策を加えるべき。また、図にもそれらの施策を盛り込むべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：前回の委員会はYouTube 発信をしていたが、一般からご意見はあったのか。

事務局：現在、パブコメ等を実施しているところ。頂いたご意見は、今後取りまとめる予定。

委員：進捗点検での流域治水の扱いをどうするのかも考えるべき。

事務局：進捗点検を実施する中でご相談したい。

委員：川づくりは市民参加で行っており、流域治水協議会にも住民メンバーも参加させるべき。

事務局：流域治水の取組を充実させるべく、参画する関係者を随時増やしているところ。民間企業や住民の協力も重要と考えており、シンポジウムでの参加等も含めて検討したい。

委員：河道内だけでなく、河川公園内も含めてワンドの整備が必要。そうすることで人と川のつながりが達成される。

淀川下流部では街中に緑がなく、河道内樹木が生物にとってはその代替となっているので、皆伐するのではなく、伐採の範囲や時期について工夫が必要。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：渇水、洪水だけでなく、平時の川の活用を考え、環境用水としての淀川の活用も記載すべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：大戸川ダムにより琵琶湖の全閉操作が増えるのでは無いか。

事務局：天ヶ瀬ダムの洪水調整中は瀬田川洗堰の全閉操作が必要であり、大戸川ダムが完成すれば、天ヶ瀬ダムの負担が減り、全閉操作の頻度や時間も減少できる可能性がある。

委員：淀川の特徴的な種としてイタセンパラがあり、整備計画策定当時は生息が危機的状況だったが、取り組みを進めた結果、生存が確認出来るようになった。しかし、残念ながら常に人が守らないと保全できない状況であり、治水対策と河川環境を意識して進めていくことが必要。

委員：河道掘削について、生物の生息環境に配慮して、段階的に施工することも検討していくべき。

事務局：河川環境に配慮しながら河道掘削を進めていく。また、検討の上、計画の案に反映したい。

委員：桂川や宇治川の掘削形状は、河床を水平に切り下げる図になっているが、工夫できないのか。

事務局：河川環境に配慮しながら河道掘削を進めていく。また、検討の上、計画の案に反映したい。

委員：イタセンパラの生息が淀川で確認され、市民はイタセンパラが戻った淀川と思い、河川環境を良くするという熱意が下がっているのでは無いか。現状の課題をきちんと記載して、環境の取組を進めることを記載すべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：生物多様性を考える上では、イタセンパラに限らず他の種に対しても、配慮して進めていることを記載すべき。外来種についても同様。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：生態系の保全の観点で、河道内樹木の伐採は環境との両立を図るように工夫をしてほしい。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：ためる対策について、例えば1m³あたりのコストを示せば、ため池などの貯留対策の指標となるのではないか。

事務局：現時点で流域での貯留効果を定量化したものはなく、今後、流域治水を進める上で、定量化の議論を進めていきたい。

委員：変更案に対する住民意見聴取の方法を具体的にどのように考えているのか。丁寧に進めるべき。

事務局：意見は極力反映していきたい。変更原案から変更案にどう反映したのか、整理して分かりやすい形で示したい。

委員：流域治水の河川管理者以外の対策に対して、効果を定量的に示すことは難しいと思う。変更案に流域治水のイメージ図を加えるべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：昭和28年台風13号と平成25年台風18号のハイドロ、ハイトをお示し頂きたい。

事務局：参考資料を作成し、次回の委員会で提示する。

事務局：変更原案の表現など細かな修正意見は委員会の中では難しいと思うので、事務局へ書面で提出頂きたい。

以上

淀川水系流域委員会【地域委員会】委員名簿

令和3年3月22日

◎委員長 ○副委員長

氏名	分野	所属等	備考
ウエダ ヨウジ 上田 耕二	治水・防災	元伊賀市喰代区長	Web
ウエダ タケン 上田 豪	人文・経済・社会	淀川河川レンジャーアドバイザー	Web
オガワ リキヤ 小川 力也	環境	科学教室 力塾 塾長 元大阪府立富田林高等学校	Web
シドウ シュウシ 志藤 修史	危機管理	京都災害ボランティアネット 副理事長 大谷大学 文学部 教授	Web
スカワ ヒサン 須川 恒	環境	龍谷大学 里山学研究センター 研究員	Web
タダ シゲミツ 多田 重光	利水・利用	(公社)宇治市観光協会 専務理事兼事務局長	Web
ナカタニ ケイゴウ 中谷 恵剛	治水・防災	NPO法人 瀬田川リバプレ隊	Web
ヒラヤマ ナオコ 平山 奈央子	人文・経済・社会	滋賀県立大学 環境科学部 講師 元琵琶湖河川レンジャー	Web
マツオカ マサトミ 松岡 正富	利水・利用	朝日漁業組合	Web
マツモト カオル 松本 馨	環境	「池田・人と自然の会」副代表 大阪大学大学院理学研究科招聘研究員	Web

(敬称略・50音順)